

第32回 幼児のための「音楽と動きのつどい」学生アンケート調査 ～保育専攻の学生へのアンケート調査に関する一考察～

32th Annual Concert for Children

～ lessons learned from a questionnaire of childcare faculty students ～

友廣 憲子

I はじめに

本学が毎年開催している第32回幼児のための「音楽と動きのつどい」を昨年11月に開催した。前回第31回から佐世保市中心街から駅に向かう国道の一角に位置するアルカス SASEBO 内イベントホールでの公演である。平成28年11月15日（火）開演10:30～終演12:20の発表。

この催しは「幼児のための」をコンセプトに幼児の参加型公演として保育学科保育専攻の学生が日頃の表現音楽の授業成果発表の場として地域へ発表を行っている。本公演は午前中公演とし、幼稚園・保育園の子ども達を招待し発表することが出来た。出演者は本学保育学科保育専攻2年生106名である。

本研究ではこの公演を通して学生の学びの成果を確認する「アンケート調査」を実施し、特に「音楽と動きのつどい」の催しに対する率直な意見を集約し、第33回の公演するにあたって今回の意見を参考にして今後役に立てたい。

II 本研究の目的

アンケート調査を通して、学生の意見を率直に検討し、次年度の授業計画や行事運営に役に立てたい。

III 研究方法

1. アンケート調査

- (1) 対象者 保育専攻2年生 105名（106名中）
- (2) 調査日 平成28年11月22日（金）

2. 調査項目

(1) アンケート内容

- ① 必要な保育技術を学ぶことができましたか？
- ② 演じるために必要な技術を学ぶことができましたか？
- ③ 仲間との作品づくりを通してコミュニケーション能力を育むことができましたか？
- ④ 「発表」の場を「表現」の場としてとらえ、自分の思いや考えを他者に伝えるための表現力を身につけることができましたか？
- ⑤ この活動に対して学習意欲は高かったですか？（4月時）
- ⑥ この活動に対して学習意欲は高くなりましたか？（11月時）
- ⑦ 音楽表現への興味関心はありましたか？（4月時）
- ⑧ 音楽表現への興味関心は高まりましたか？（11月時）
- ⑨ 活動を通して知識の修得はありましたか？
- ⑩ この活動は将来、保育士になった時に役に立つと思いますか？
- ⑪ 発表に満足しましたか？
- ⑫ 発表を通して達成感はありましたか？

⑬ 幼児のための「音楽と動きのつどい」の催しに対するあなたの率直な感想を記入してください。

IV 調査結果

表1 项目的割合

	5 非常に良い	4 良い	3 普通	2 良くない	1 非常に良くない
調査項目	5	4	3	2	1
①	35.2	40.0	22.8	0.2	0
②	30.1	42.8	23.9	3.2	0
③	30.1	43.8	22.9	3.2	0
④	38.0	40.9	19.0	2.1	0
⑤	36.1	39.0	22.9	0.2	0
⑥	38.0	39.2	22.8	0	0
⑦	21.9	46.6	26.7	4.76	0
⑧	40.0	43.9	16.0	0	0
⑨	41.9	41.0	17.1	0	0
⑩	40.9	38.1	21.0	0	0
⑪	52.4	38.0	6.9	2.7	0
⑫	64.7	21.9	9.52	2.87	(未回答) 1.1

表2 ⑬「音楽と動きのつどい」の催しに対する率直な感想を記入してください。

公演に対して
<ul style="list-style-type: none"> ・思っていたよりとても楽しく他のクラスとの交流もあり、仲が深まった。また踊りたい。 ・素晴らしい音楽と動きになってよかった。みんなの普段見ることのない姿を見ることができた。 ・覚えるのは大変でくじけそうになったけど、演じてみてとてもあつという間で、頑張っってよかった。 ・困難なこともあったが乗り越え、本番で一番の演技をすることが出来大きな達成感を感じた。 ・とても楽しくつどいに参加することが出来たので良かった。終了後の達成感がとても大きかった。 ・最初は上手く出来るか不安だったけどメンバーと協力して楽しくできた。 ・とても楽しく思い出になった。 ・楽しかった。 ・頑張った。 ・練習でまとまりがなくて本番が不安だったけど、本番では子どもたちが曲に合わせて歌ってくれたりしていたので良かったなと思った。 ・楽しく発表出来て良かった。 ・準備や練習がとても大変だったが本番が上手くいったので良かった。 ・舞台上がって演じるうえで何が必要かスポットライトや様々な道具に触れることが出来て良かったと思った。 ・良い発表になったと思う。 ・準備物の変更があったりしたけれど本番は今までの練習の中で一番上手にできたと思う。つどいができて本当に良かった。 ・最初から明確に取り組むスケジュールも係りも仕事内容も決まっておらず誰もが無責任の状態になっていたの、最後にやらなければいけなくなったと思う。 ・連絡不足が原因だった。

- ・ピアノは先生の求めていることが多すぎてついていけず辛かった。
- ・卒業前に良い思い出ができてよかった。
- ・とても楽しかった。
- ・準備や練習は大変だったけれどみんなで力を合わせることができ、良いものができたかなと思った。
- ・すごく楽しかった。
- ・全体的にはとても良い発表になったと思う。先生方お疲れさまでした。
- ・みんなで頑張ったから成功したと思う。
- ・発表前日、皆が一丸となっている姿がとても素敵だった。
- ・市民会館の発表を観ていたので少し物足りなさはあった。
- ・練習を積み重ねて臨んだ本番は最高の思い出になった。
- ・本番 2 週間前頃になって全員必死になって取り組んだ。楽しくできたので良かった。
- ・楽しく皆とダンスを踊ってためになることを学べた。
- ・最初はどうなるのか心配だったが本番では全員が良い舞台にしようとひとつになれたと思う。
- ・すごく楽しかった。
- ・一つの作品をつくりあげることで達成感を味わえた。
- ・とても楽しくみんなで協力してできたのでとても良かった。踊りを覚えるのは苦手だったけれどリーダーがとても優しくわかりやすく教えてくれて感謝している。
- ・当日は自分たちの発表で段取りが上手くできておらず他の人との動きが合わないところもあったので、もう少し事前の練習、打ち合わせを十分に行うべきだったかなと思った。それでも子どもたちはとても興味津々に見てくれていたし、自分自身もとても楽しくできたのでとても良かったと思う。
- ・それぞれのパートを一人一人が責任をもって練習を行い、本番では楽しく演奏を行い本番では楽しく演奏が出来、ステージを成功させることが出来たと思う。
- ・皆が練習を頑張り最高の舞台になった。衣装・髪型・メイクを考え行うことが楽しかった。

活動に対して

- ・楽器を吹いたことがなかったので吹けるようになったことが素直に嬉しかった。とてもいい機会になった。
- ・音楽を通して様々な感動を見ることができた。そして、私自身も今までに出来ないことを感じる事が出来てよかった。
- ・ダンスは最初覚えるのが難しく覚えるのが大変で出来るか心配だったが練習して踊れた時の達成感があり良かった。
- ・始めて楽器に触れて音を出すのは難しかったけれど練習して 1 つの曲として完成した時はすごく達成感があった。
- ・楽器に対して初心者の子が多く、楽器を教える立場で緊張した。
- ・初心者だったのでついていくのが大変だった。出来るところだけは一生懸命に出来た。
- ・ダンスは苦手だったけど練習するにつれ踊れるようになり、とても楽しかった。
- ・最初は踊れるか心配だったが、練習していくうちにだんだん楽しくなっていった。
- ・楽しかった。自分たちで曲決めやふりを決め、衣装を作り、みんなで協力することができて良かった。
- ・あとから、大変だ！となったのでもっと前もってすべきだった。衣装も係りの人だけでなく皆で話し合っただけで済むものをすればよかったと思った。
- ・もっと早くから計画、準備しなければいけなかったと思った。
- ・最初は嫌だったけど楽しかった。
- ・練習が始まったときは全く先が見えず想像がつかないまま授業に取り組んでいたが本番に近づくにつれグループのメンバー同士での意見交換も増えた。

- ・ 良い意味で人間のいろいろな所を見ることが出来たと思う。チーム力が高くなったと思うけれどもそこまで行くのが大変だった。
- ・ もう少し早い段階から準備を行い演技や歌の練習をたくさんできるように時間を大事にしなければいけなかったと反省した。そうするともっと満足のいく発表が出来た。
- ・ スケジュール管理が上手くいかなかった。
- ・ 前半はだらだらと過ごしていたが後半はあせりぎみだった。何月にはこれを決めてどこまで作るかカレンダーで決めておくべきだったと思った。仲間で何が必要なか情報が上手く伝わっていなかった。
- ・ やる人やらない人の差が大きかった。
- ・ 初めて触った楽器、初めて演奏する楽器、ひとつひとつが初めての経験だった。ゼロからのスタートで音を鳴らすところから取り組みとなり、本番まで出来るようになるのか不安だった。初心者しかいないパートで大変だったが、演奏できることを一生懸命やりとげることが出来た。
- ・ もう少し早くから通せていたらよかった。特定のメンバーしか製作をしていなくて他の人にももっと協力してほしいと思った。
- ・ 衣装を可愛くしてほしいと言うのはいいけれど、具体的な指示もなかったし、一緒に手伝ってほしかった。
- ・ 最初からゆっくりしすぎていて絶対に本番まで間に合わないと思っていたけど完成することができて良かった。
- ・ 準備などが間に合うか不安だったがいい作品になったと思った。あまり話す機会がない人とたくさん話すことができ、コミュニケーションが取れた。
- ・ グループのみんなと協力して楽しく踊ることができた。
- ・ グループのみんなと協力して踊りを完成させることができてとても楽しかった。
- ・ 夏休みですっかり忘れることが多かった。1年生が手伝ってくれてとても助かった。
- ・ 今回新しい楽器に挑戦することが出来てよかった。みんなで頑張れてよかった。
- ・ 子どもたちに喜んでもらえるような作品を仲間と作り上げていくことがとても楽しく、将来保育士になったとき役に立つような経験ができた。
- ・ つどいを通して吹奏楽にかけてあるお金と他のグループの経費予算はどれくらい違いがあるか知らないけれど差を感じたし、平等にすべきだと思う。1年生が手伝いに来てくれて本当に良かったと思うけど、指示をしても動いてくれなかった人もいるし、2年生は動いているのにずっと突っ立って何も聞こうとしないのはおかしいと思った。何をしにきたのだろうと思った場面があった。
- ・ 自分にできるのか不安があったが皆の協力などがあり、楽しくやり遂げることができた。とても思い出に残る取り組みとなった。普段話さない人とも交流が出来、とても良い催しだと思う。
- ・ 衣装を担当した。保育士になると子どもたちの衣装も作ることになるので良い経験となった。
- ・ ダンスも自分なりに頑張ることができた。
- ・ グループの協力はうまくいなくて本番ギリギリでいろいろあってだいぶ嫌になった。でも終わった後、子どもたちから「可愛い」「すごい」など楽しんでいる声が聞こえ、達成感があってやって良かったと思えた。
- ・ 触ったことがないところから始まったが経験者の人に教えてもらいながら全てではないが弾くことができとても楽しむことが出来た。
- ・ 始めて楽器演奏をしてみても弾くことの楽しさを知ることができた。また新しい楽器を演奏してみたい。
- ・ 弾いたことがない楽器になりとても難しく途中でやる気がなくなったこともあったが頑張って練習して無事終わることができ良かった。
- ・ 楽しかった。仲良くなかった人とも今は友達になれた。ダンスを笑顔で踊れるようになった。
- ・ あまり話したことがない人とも関りがもてすごく良い機会となった。
- ・ 最後には全員で楽しむことができすごく楽しかった。
- ・ ダンスが苦手だったので不安だったけれど先生や周りの友達が教えてくれたのでとても助けられた。今まであまり話したことがなかった人とも仲良くなれた。踊れないけどダンスが好きになった。とても楽しかった。

- ・授業で「つどい」の練習をしてきて、大変だったけれどみんなで協力して完成させることが出来て良かった。
- ・間に実習が入りふりを忘れてしまったけれど本番までに覚えて踊りきることができて良かった。
- ・人をまとめる大切さや大変さがわかった。
- ・協力することの楽しさを改めて学ぶことが出来た。

子どもとの関わり

- ・実習が終わり子どもとの関わりが少なくなった中、久しぶりに子どもたちに囲まれてとても楽しかった。
- ・子どもたちも一緒に歌ってくれたりして、喜んでくれたので嬉しかった。
- ・子どもたちの喜ぶ姿を見ることができ非常に嬉しかった。
- ・たくさん子どもたちが来てくれて一緒に歌ったり踊ったりできて本当に楽しかった。
- ・ダンスを踊りながら子どもたちも一緒に楽しく踊っている様子が見られ嬉しかった。
- ・子どもたちを実際に目の当たりにして楽しませるため頑張ろうと思った。そばで反応を感じることができやりがいがあった。
- ・子どもたちが笑顔で一緒に踊ってくれて嬉しかった。

学生の率直な意見

- ・子どもたちや先生の前ではきちんとするのに掃除や片付け・準備など、裏の見えない仕事は手を抜いている人がいたので、見ていて腹が立った。
- ・係りの一人一人がやることを理解していなかったの、作るものを決めた当初より実際に作られたのが少なかった。そのため、ゲネプロで大道具が変更になった。作る時間は十分にあったにも関わらずそのようなことになったのは、色々な人との連携や確認を細目にとるということが不十分であったためだと思った。自分が納得できず中途半端なまま、本番を迎えてしまったので、来年はリーダーが中心に話し合い、ラインでの連絡の取り合い進み具合の確認をしっかりとしてほしい。
- ・社会人として身につけなければならない「協調性」「他者の考え」「意見に耳を傾ける」など身につけたかったが、なかなか思うようにいかなかった。こういった場で一番大切なことは「自分は苦手だが挑戦し得意な人の意見などを取り入れながら行う」ことだと思う。最初からできる人はいないが「挑戦したけど周囲から言われるのは嫌」と思うなら成長もないうに「私は頑張っているのにまわりが」と大部分を人のせいにしてしまう性格となる。今回はそういった人が多く、「自分とは関係ない役割だから知ったことか！」という空気が流れたがために必死でよりよいものを作ろう！という雰囲気にならなかった事が何よりも歯がゆかった。
- ・1年生の文化祭が終わった後からつどいの計画やグループを作りたかった。少しつどいの時期が早いと感じた。
- ・最初は不安で一杯だったが、最後は楽しくできたので良かった。
- ・オペレッタより劇のほうが保育者になったとき役立つ気がする。劇なら音楽が苦手な人も楽しめる気がする。
- ・実習が終わってから準備期間が短かった。集いの時期が早すぎた。
- ・片付けの時間、お昼の時間がはっきり記載していなくて戸惑ったので、詳しく記載してほしい。
- ・積極的に準備をしている人とそうでない人の差があった。
- ・実習があったので準備がたいへんだった。途中までやっていたことも忘れてしまった。
- ・後片付けなどいつも同じメンバー。本番の後片付けも昼食を優先し協力しようとするところがなく残念だった。

V 考察

批判的な内容もあるが、敢えて学生の言葉をそのまま記載している。

「音楽と動きのつどい」の調査結果から学生の感想を「公演に対して」「活動に対して」「子どもとの関り」「学生の率直に意見」というカテゴリーに選別してみた。

(1)「公演に対して」

概ね肯定的な意見が多い。「とても楽しくつどいに参加することが出来たので良かった。終了後の達成感がとても大きかった」「とても楽しく思い出になった」など、観客を前に舞台上に立てたことの喜びの意見が多い。特に子どもたちの反応を肌で感じて喜びを感じている。「準備や練習がとても大変だったが本番が上手くいったので良かった」授業での学びと練習が大変だったが、本番で上手くパフォーマンスできたことへの達成感を感じているようである。

今回の活動は初心者であった学生が何とか努力して舞台上に立てたことなど、学生たちは自分への自己評価が高い傾向のようである。

「活動に対して」

「練習が始まったときは全く先が見えず想像がつかないまま授業に取り組んでいたが本番に近づくにつれグループのメンバー同士での意見交換も増えた」という意見から筆者が考えなければいけないことは活動のイメージがついていないことである。「音楽と動きのつどい」の催しを理解してもらうために1年時にゲネプロを鑑賞することを授業の一環として義務付けている。「音楽と動きのつどい」の行事がどのような催しで「子どもたちの」をコンセプトに日頃の表現音楽活動の研究成果を発表する場であることを理解させている。しかし、「理解させている」と思っているだけで実際は理解していない学生がいたことを現実として受け止めなければいけない。1年時は基礎的な保育技術の修得を目的に授業があり、2年時は「音楽と動きのつどい」発表に向けての授業内容となる。今後は発表までのおおよその活動計画を学生に理解させる必要がある。次の活動は年間活動計画（音楽と動きのつどい）を学生に示していきたい。

「良い意味で人間のいろいろな所を見ることが出来たと思う。チーム力が高くなったと思うけれどもそこまで行くのが大変だった。」創作活動を行う活動は学生本人のモチベーション維持を心掛けないといけないが人任せで自分は意欲的に取り組むことが困難な学生もいる。そうした自己の甘えは共に活動する学生の中から「人間のいろいろな部分」を見ることがあったと述べている要素であるのではないだろうか。一人一人の意欲的な活動が一つの大きな作品づくりとなり、チーム力になるのではないだろうか。チーム力が高くなるということは同じチームのメンバー1人1人が目標に向かって努力することで高まっていく。そのことの難しさを学生たちは感じている。

「経費」については3活動（オペレッタ・ダンス・吹奏楽）の一人当たりの予算は同じなので、製作する上での差は生じないはずである。今後も予算については同じ方法で運営していきたい。

「子どもとの関わり」

多くの学生は子どもたちが公演を通して、ピアノを演奏すれば一生懸命曲に合わせて歌ってくれる。ダンスがあれば立ち上がって一緒に踊ってくれるし、演じれば「すごい」「かわいいー」など、たくさんの感動を学生たちに伝えてくれた。その反応のおかげで学生は頑張ったよかったという満足感につなげることができた。子どもの反応はそれだけ学生の心の栄養剤となり次へのステップになる。忙しい行事が続く中、公演に参加してくださったS幼稚園、M保育園、K幼稚園に心から感謝したい。

「率直な意見」

「1年生の文化祭終了後、「音楽と動きのつどい」の計画やグループを作りたかった。少しつどいの時期が早いと感じた」現在、出演するのは2年時の学生と限定しているが、1年時には本学の学園祭（白蝶祭）で「音楽と動きのひろば」を開催し、授業の成果発表を兼ねた発表を実施している。学生の意見は1年時の学園祭終了後、「音楽と動きのつどい」の計画やオペレッタ・ダンス・吹奏楽の活動に分け、活動を行いたかった、実習が多くあり、授業時間も限られていたため、時間が足りなかったと考えているのであろう。確かに昨年11月3日（木）は祝日で学校は休校。その後授業で1回実施してのリハーサルで、学生たちの「間に合うか不安だっ

第32回 幼児のための「音楽と動きのつどい」学生アンケート調査 ～保育専攻の学生へのアンケート調査に関する一考察～

た」という記述からもあせりが窺えた。本学での授業回数の確保は必須であり、リハーサルまでに補講を入れ授業回数の改善を行う予定である。また、1年時の指導者から2年時指導者は担当者が変更になるので早い時期にオリエンテーションを実施するなど検討していきたい。

VI まとめ

今回のアンケート調査から、学生の意見に耳を傾け運営の見直しを図ると共に学生にとってより良い活動となるように改善できる点は改善を行い、実習から帰ってきてからの授業回数（補講）の確保を明確にすること。また、授業計画、本公演の年間計画などを説明する時間を設け、「先がみえない不安」を払拭させるよう努力を続けていきたい。

付記 本研究は平成28年度長崎短期大学傾斜配分研究費より助成を受け行われたものである。